

9. 普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性

普段の生活の中で「しまくとぅば」は必要だと思うかについてみると、全体では、「非常に必要」の回答が17.2%、「ある程度必要」が61.3%となっており、これらを合わせた割合は78.5%となっている。

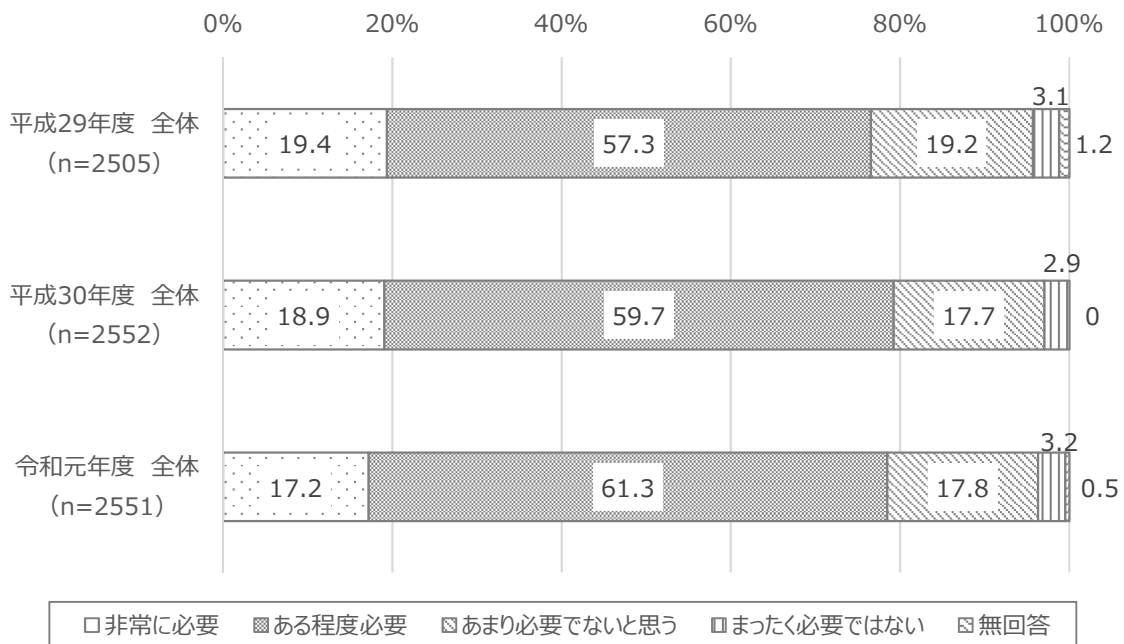
過去調査比較では、「ある程度必要」以上の回答は平成29年度が76.7%、平成30年度が78.6%、今回が78.5%でほぼ横ばいとなっている。

性別では、「ある程度必要」以上の回答が男性が79.0%、女性で78.0%で差は見られない。

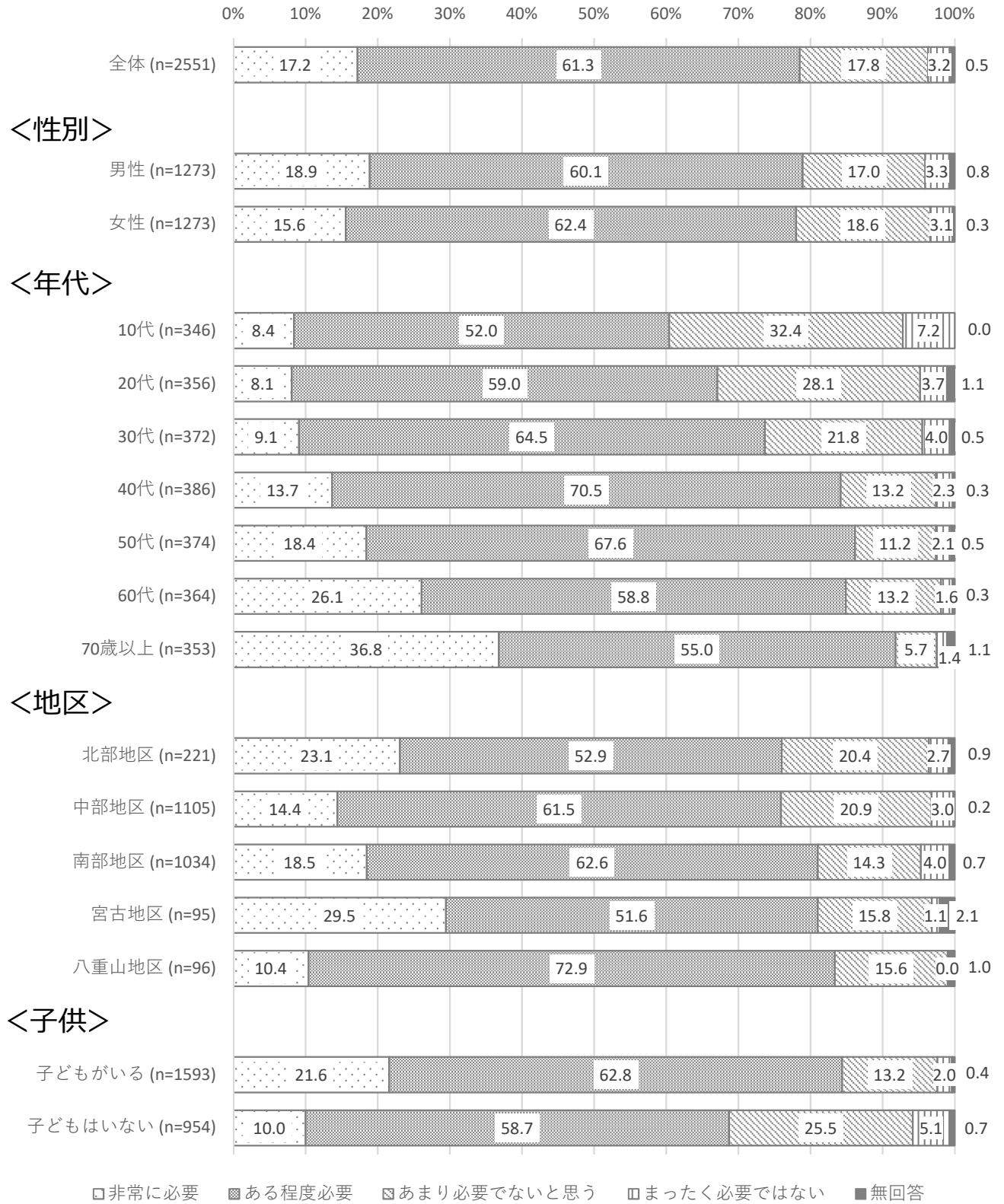
年代別では、年代が上がるにつれ、必要性を感じる回答が多くなる傾向があり、10代では、60.4%に対して、70歳以上では、91.8%となっている。

地区別では、「八重山地区」が最も高く83.3%、最も低いのは「中部地区」で75.9%だった。

普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性（過去調査比較）



普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性

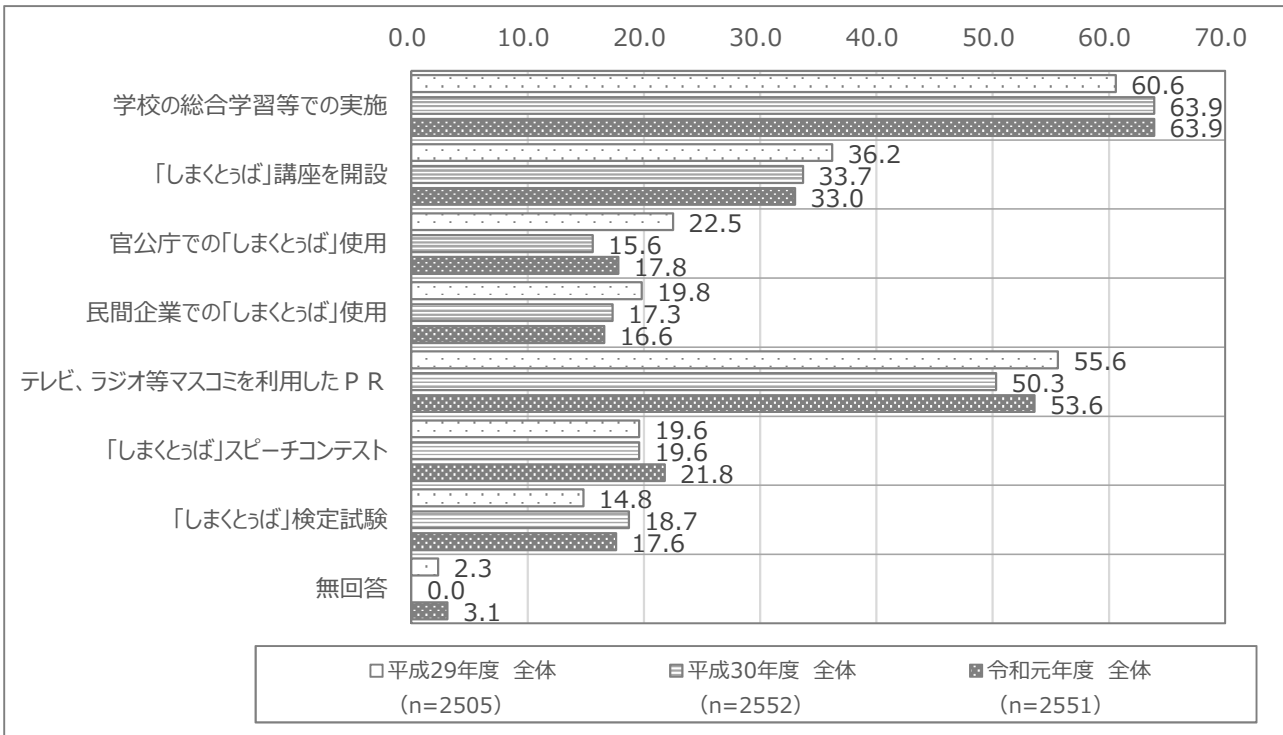


10.「しまくとぅば」の普及に必要なこと

「しまくとぅば」の普及に必要なことでは、「学校の総合学習等での実施」が63.9%で最も高く、次いで、「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR」が53.6%となっている。

過去比較でも同様に「学校の総合学習等での実施」が最も高く、次いで「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR」となっている。

「しまくとぅば」の普及に必要なこと（過去調査比較）



「しまくとぅば」の普及に必要なこと

	学校の総合学習等での実施	「しまくとぅば」講座の開設	官公庁での「しまくとぅば」使用	民間企業での「しまくとぅば」使用	テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR	「しまくとぅば」スピーチコンテスト	「しまくとぅば」検定試験	無回答
全体 (n=2546)	63.9	33.0	17.8	16.6	53.6	21.6	17.5	3.1
男性 (n=1273)	60.3	31.2	19.2	17.2	53.6	20.8	17.2	4.2
女性 (n=1273)	67.5	34.7	16.3	15.9	53.6	22.3	17.8	2.1
10代 (n=346)	56.6	24.6	9.0	9.0	46.0	19.4	20.5	4.0
20代 (n=356)	65.2	26.4	15.7	14.0	50.3	21.3	18.3	4.2
30代 (n=372)	62.9	29.6	13.7	15.6	53.8	15.6	16.4	1.9
40代 (n=386)	63.5	35.8	18.1	16.6	51.8	16.6	18.4	2.1
50代 (n=374)	63.6	38.0	19.0	18.4	57.0	24.9	17.9	2.7
60代 (n=364)	67.3	39.0	21.7	19.5	58.5	28.8	17.3	3.0
70歳以上 (n=353)	68.0	37.4	27.2	22.9	57.8	26.1	14.4	4.2
北部地区 (n=221)	57.9	25.8	17.2	14.9	52.9	24.4	13.6	6.8
中部地区 (n=1105)	63.9	32.9	18.7	16.7	58.5	24.4	21.2	0.6
南部地区 (n=1034)	64.2	33.3	17.3	16.6	50.2	18.2	15.1	5.0
宮古地区 (n=95)	73.7	40.0	13.7	13.7	44.2	21.1	15.8	5.3
八重山地区 (n=96)	64.6	41.7	17.7	22.9	45.8	24.0	14.6	1.0

11.子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識

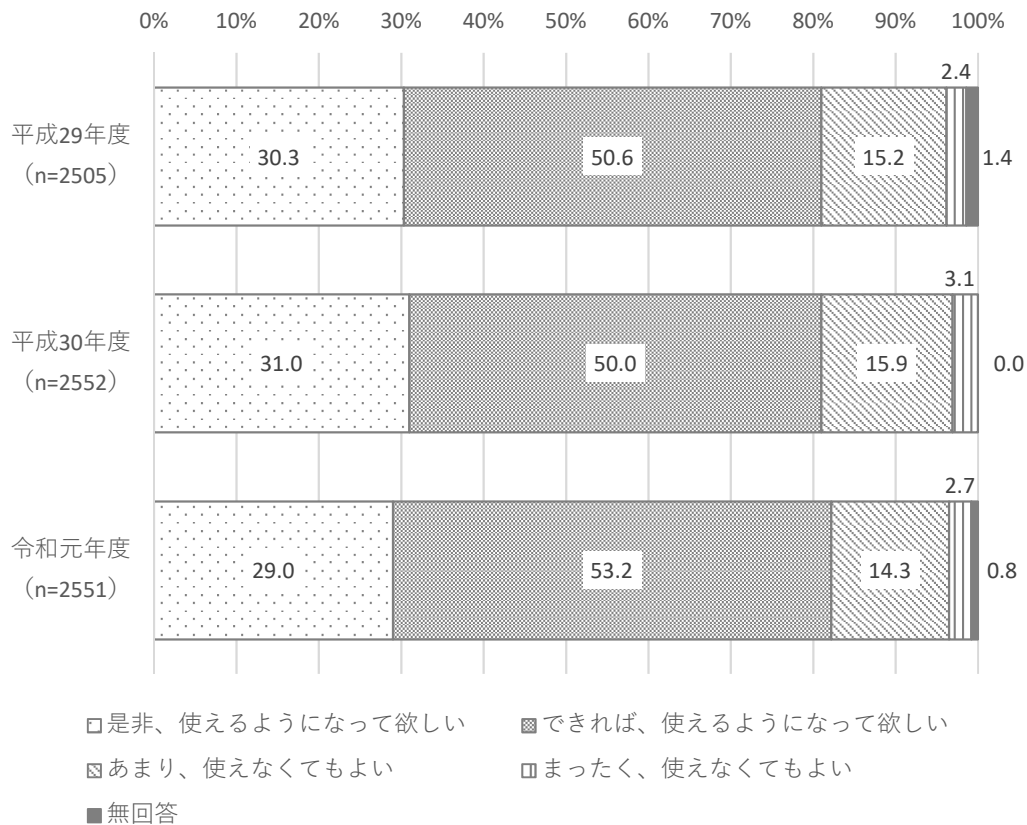
子供たちに「しまくとぅば」を使えるようになってほしいかの質問では、「是非、使えるようになってほしい」が、29.0%、「できれば、使えるようになってほしい」が53.2%となった。「是非、使えるようになってほしい」、「できれば、使えるようになってほしい」の合算値では、82.2%が肯定的な回答となる。

「是非、使えるようになってほしい」、「できれば、使えるようになってほしい」の合算値について、性別ではあまり差は見られず、男性が81.4%、女性が82.8%だった。

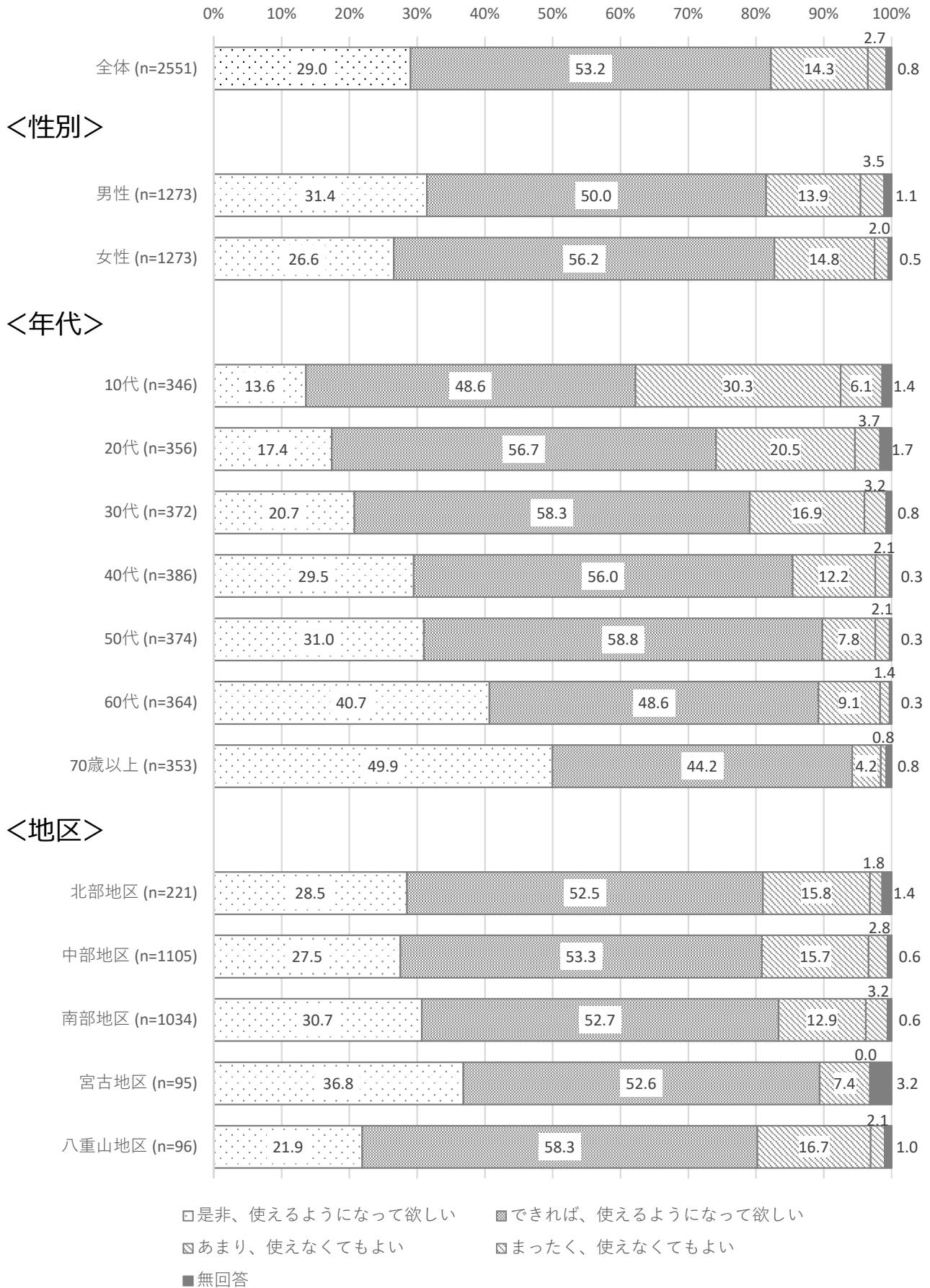
年代別では、他の設問同様に年代が上がるにつれ、肯定的な回答が増える傾向にあり、70歳以上では、94.1%の回答となった。

地域別では、宮古地区が最も高く（89.4%）、最も低かったのは八重山地区（80.2%）であった。

子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識（過去調査比較）



11.子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識



12.学校の授業科目に「しまくとぅば」を加えることについて

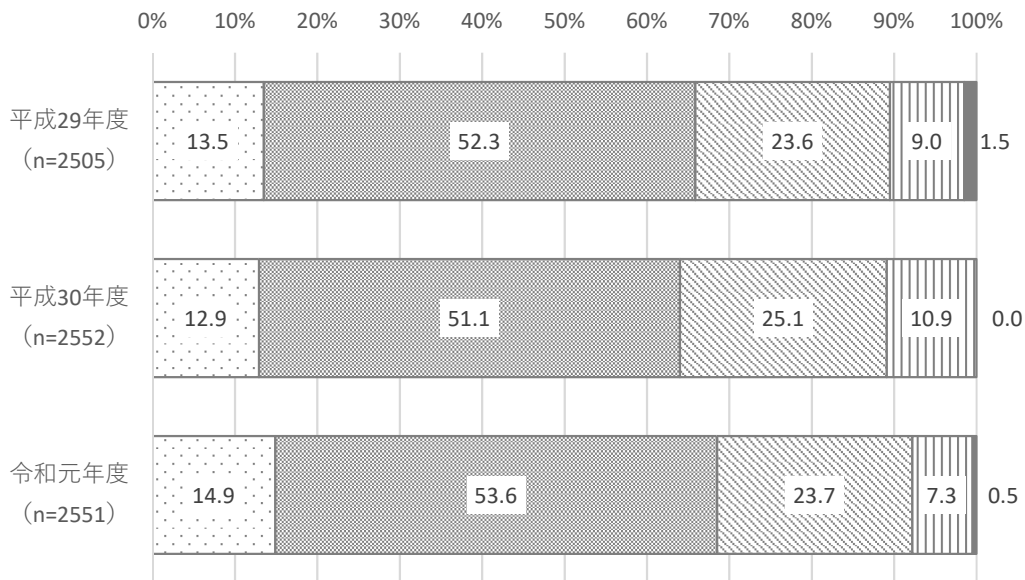
「しまくとぅば」を学校の授業科目に加えることについては、「行事や日常のあいさつ等、授業以外の活動で取り組んでほしい」が53.6%で最も高い。次に「どちらともいえない」が23.7%となっている。「他の教科の授業を減らしてでも、是非、加えてほしい」という回答は全体の14.9%となっている。

過去調査でもほぼ同様の傾向で、「行事や日常生活のあいさつ等、授業以外の活動で取り組んでほしい」が過半数を占める。

性別、地域別では大きな差は無い。

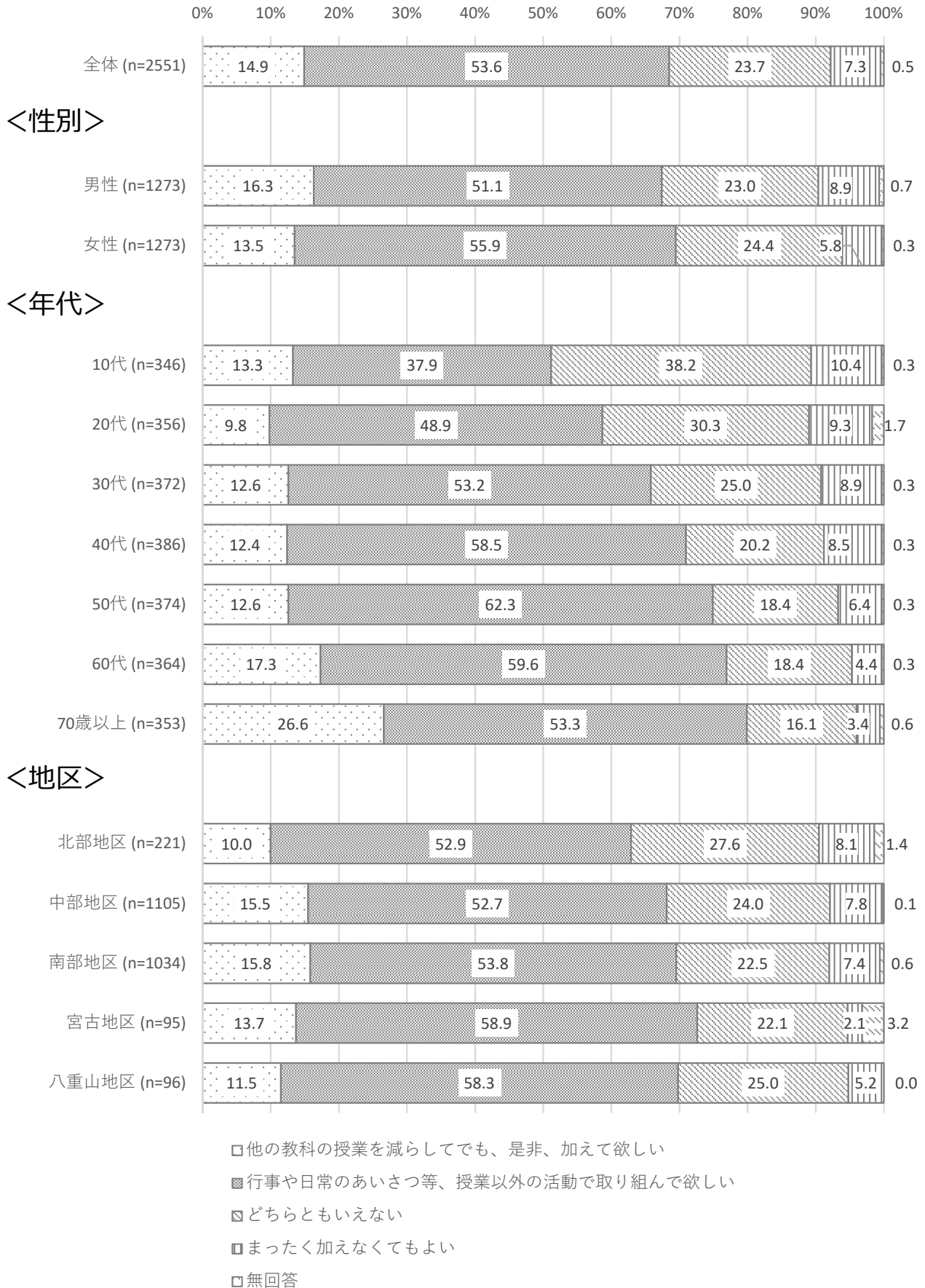
年代別では、年代が上がるにつれ肯定的な回答が多くなった。

学校の授業科目に「しまくとぅば」を加えること（過去調査比較）



- 他の教科の授業を減らしてでも、是非、加えて欲しい
- 行事や日常のあいさつ等、授業以外の活動で取り組んで欲しい
- ▨どちらともいえない
- まったく加えなくてもよい
- 無回答

学校の授業科目に「しまくとぅば」を加えることについて



13.家庭内での「しまくとぅば」への取組状況

「子どもがいる」と回答した1,593名に対して、家庭内での子供に対する「しまくとぅば」への取り組み状況を尋ねたところ、全体では、「時々教えている」が最も回答が多く、44.8%、次に「ほとんど教えることはない」が40.1%であった。

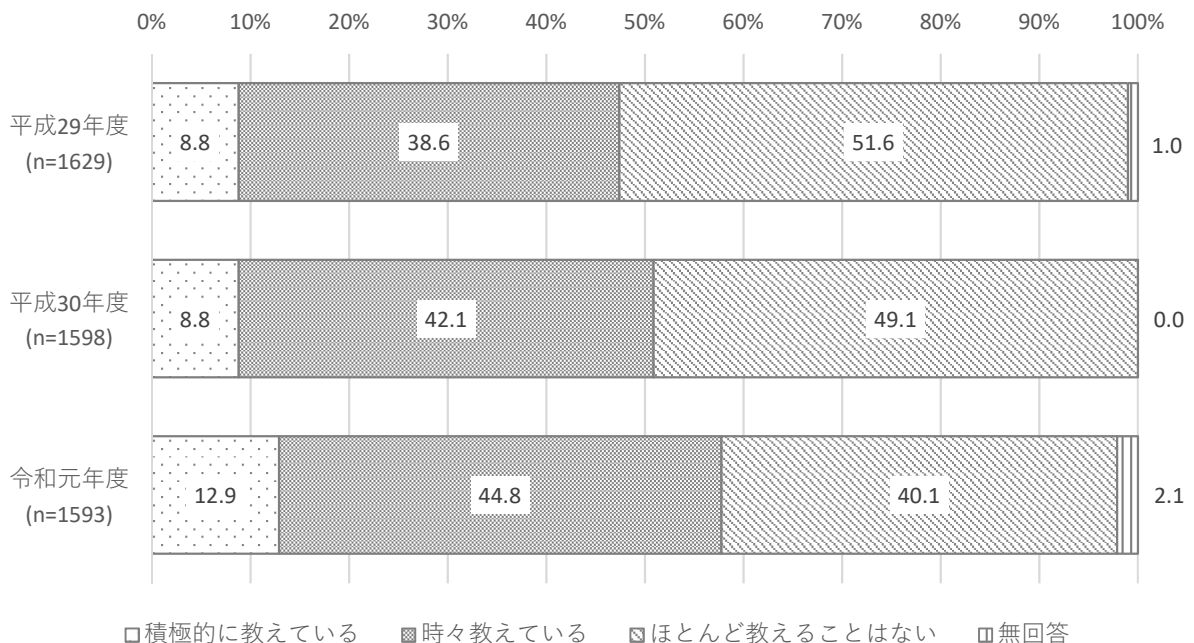
性別で見ると、「積極的に教えている」、「時々教えている」の合算では、男性が60.7%、女性が55.0%となっている。

過去調査と比較すると「積極的に教えている」「時々教えている」が増加傾向である。

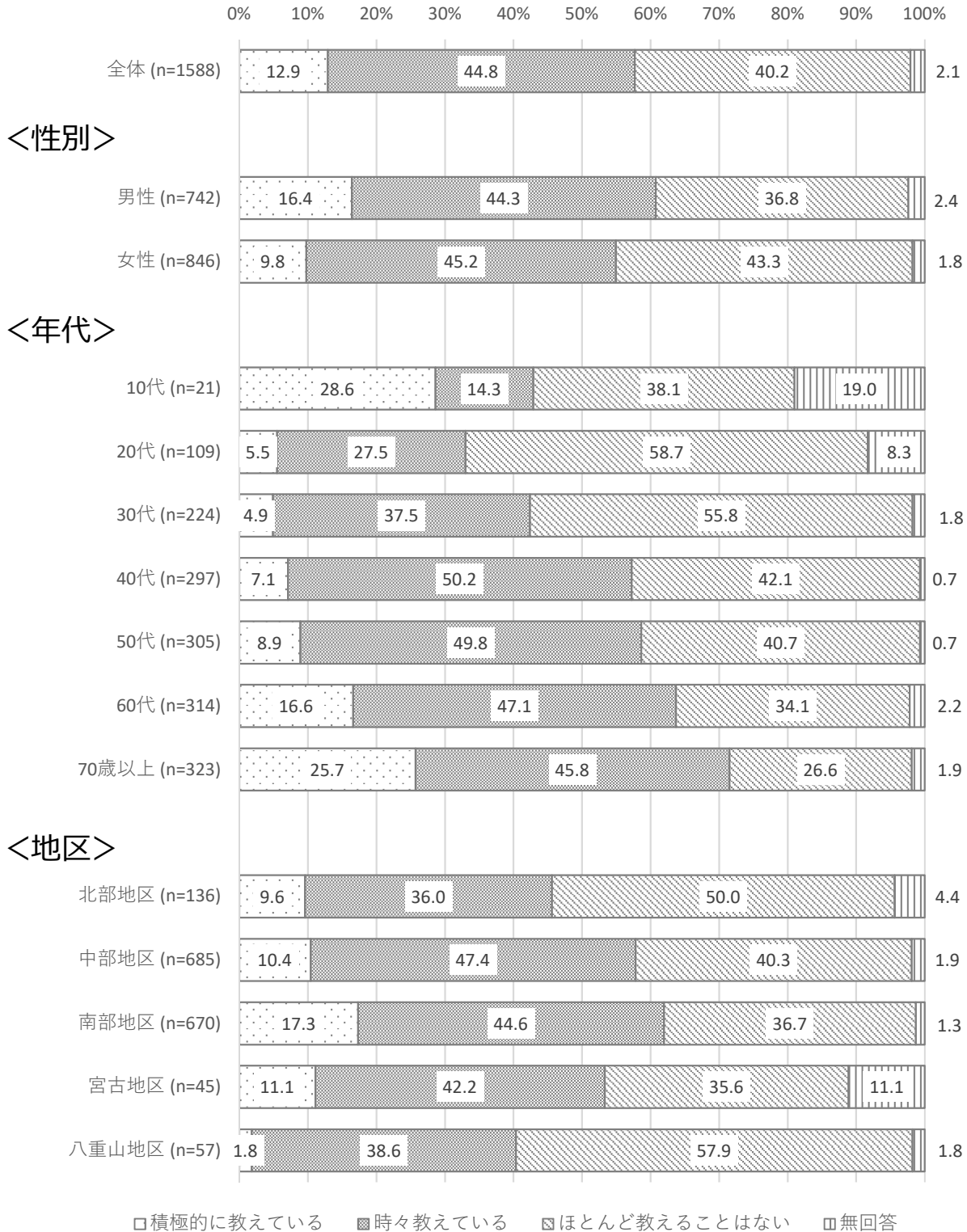
年代別では、年代が上がるほど高くなる傾向がみられる。

地区別では、「南部地区」が最も取り組んでおり、「積極的に教えている」が17.3%、「時々教えている」が44.6%となっている。

家庭内での「しまくとぅば」への取組状況（過去調査比較）



家庭内での「しまくとぅば」への取組状況



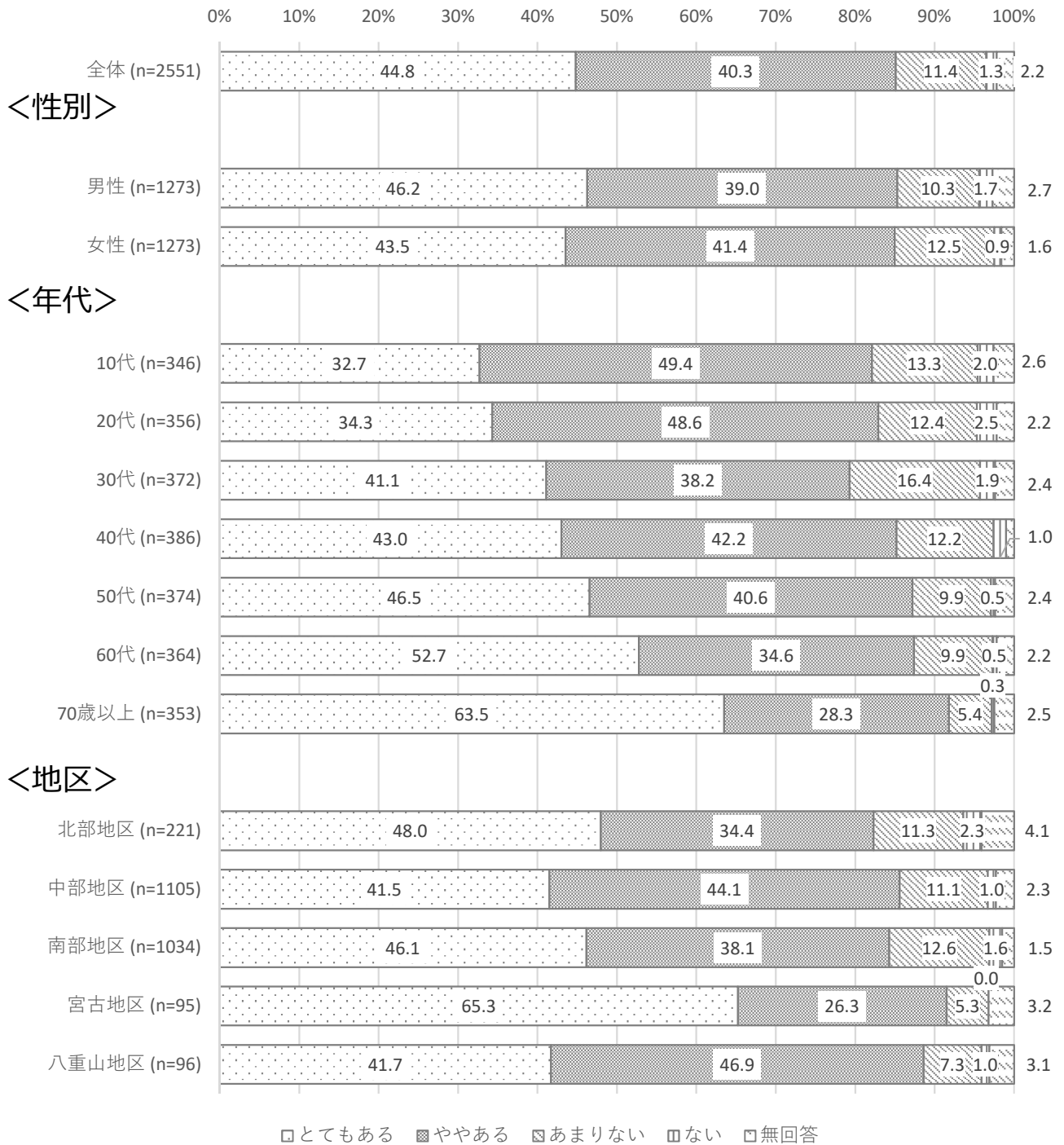
※上記10代は該当者が少ないため、参考程度に留める

14.自身が住んでいる地域への愛着について

自身が住んでいる地域への愛着については、「とてもある」が44.8%、「ややある」が40.3%。合算値では、85.1%であった。

性別で見ると、男性が合算値でいうと85.2%、女性が84.9%だった。年代別では、最も高かったのが、70歳以上で91.8%、次いで60代の87.3%となっている。

地区別では、「宮古地区」が最も高く91.6%だった。



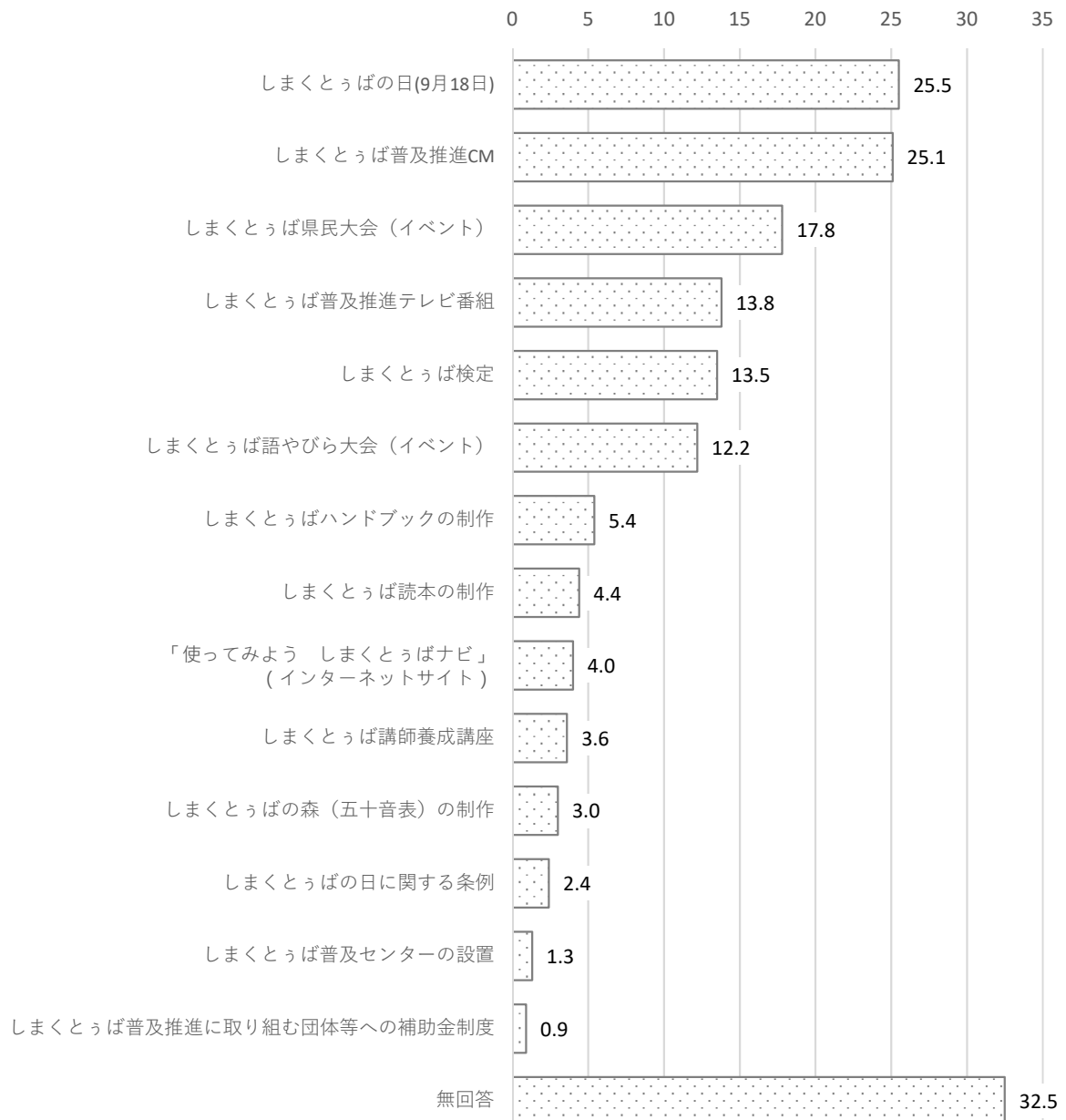
15. 普及継承の取り組みについての認知度

「しまくとぅば」の普及継承についての認知度では、「しまくとぅばの日」が最も高く25.5%、次いでほぼ同率で「しまくとぅば普及推進CM」が25.1%となっている。

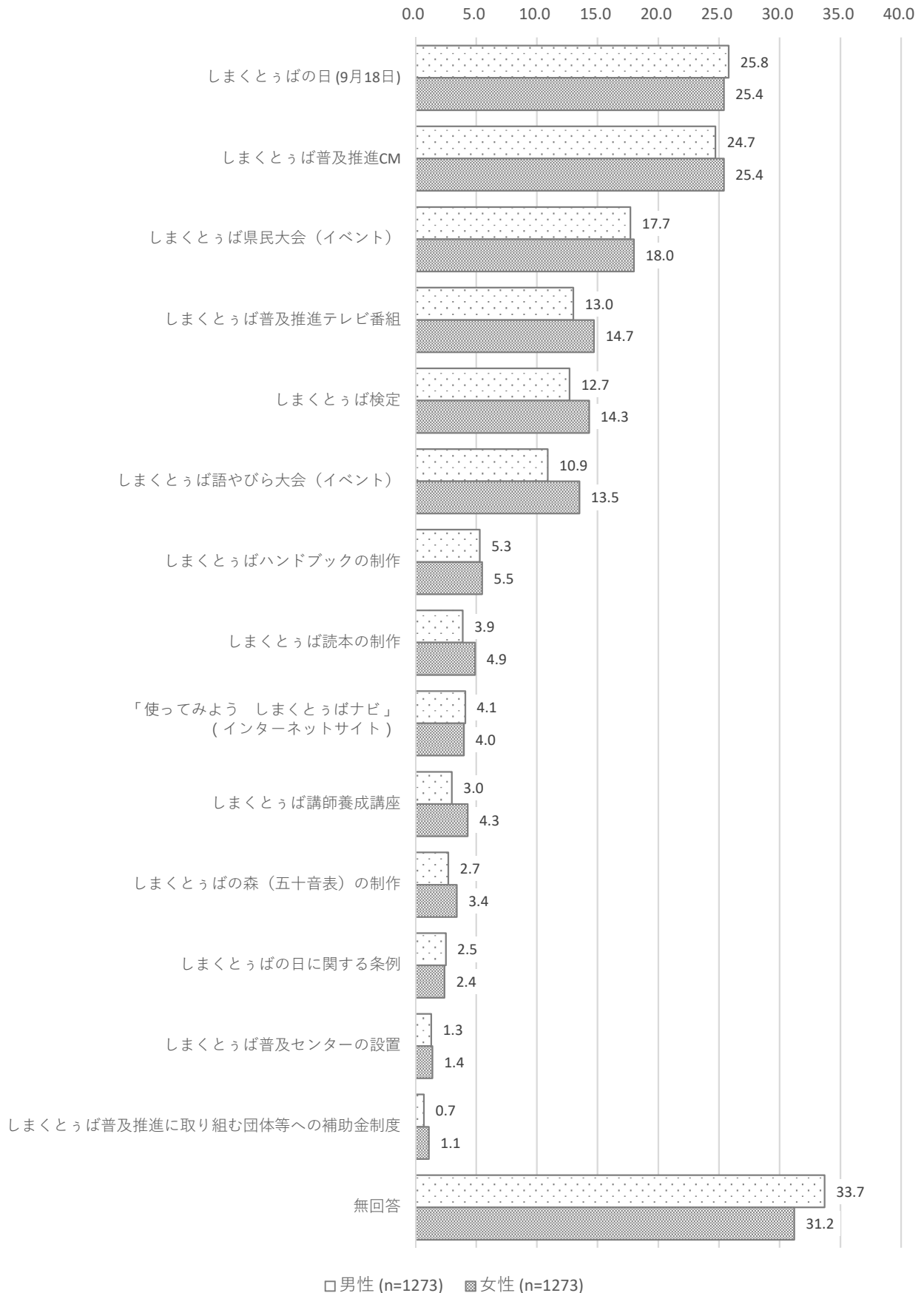
性別では、男性が「しまくとぅばの日」が最も認知されており25.8%、女性では、「しまくとぅばの日」、「しまくとぅば普及推進CM」が共に25.4%で最も高い回答となった。

年代では、30代、50代、70代が「しまくとぅば普及推進CM」の回答が最も高く、それ以外の年代では、「しまくとぅばの日」が回答が多い。

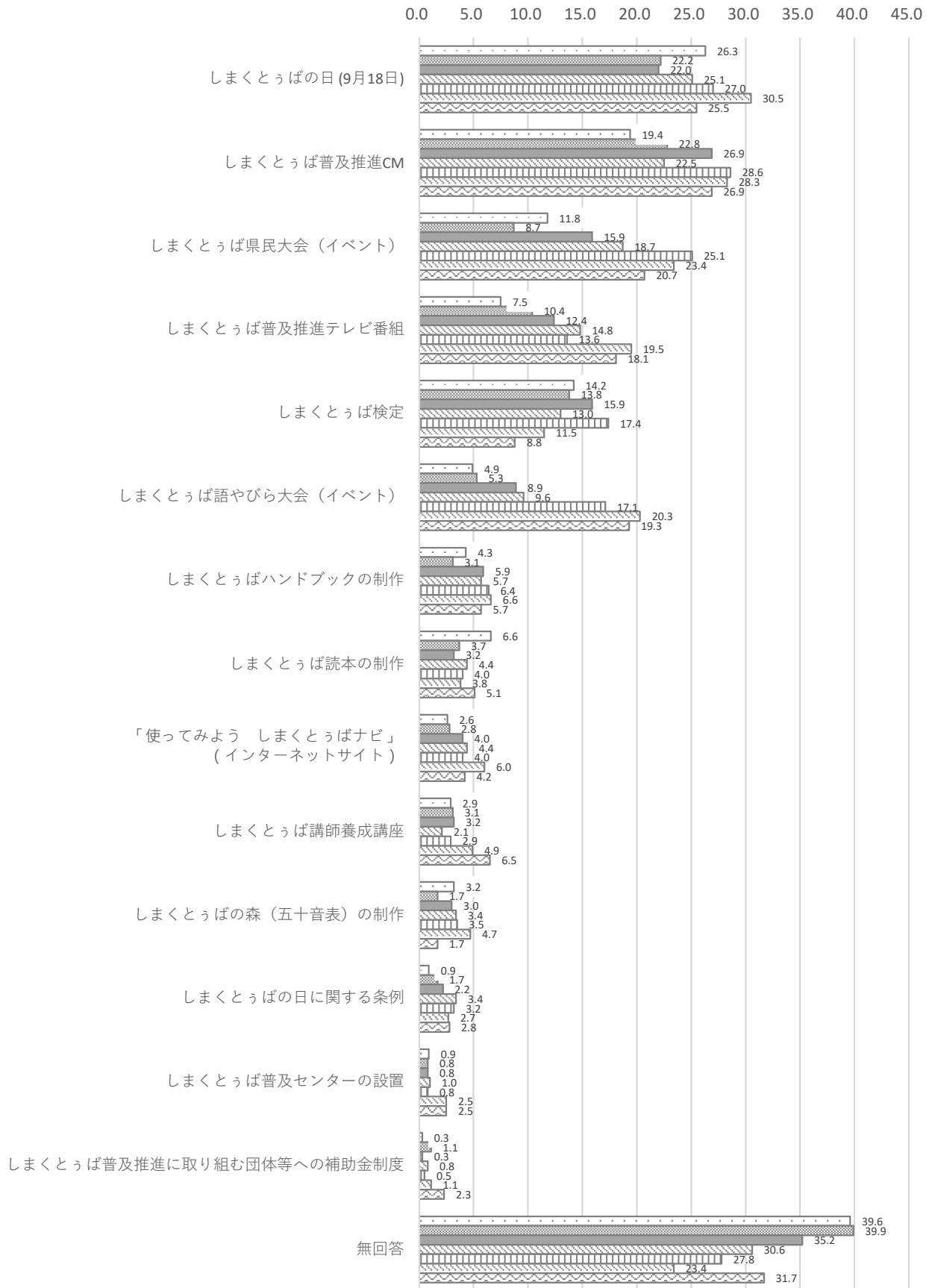
地域別では「北部地区」、「宮古地区」、「八重山地区」が「しまくとぅば普及推進CM」との回答が最も高く、「中部地区」、「南部地区」については、「しまくとぅばの日（9月18日）」の回答が高かった。



15.普及継承の取り組みについての認知度（性別）

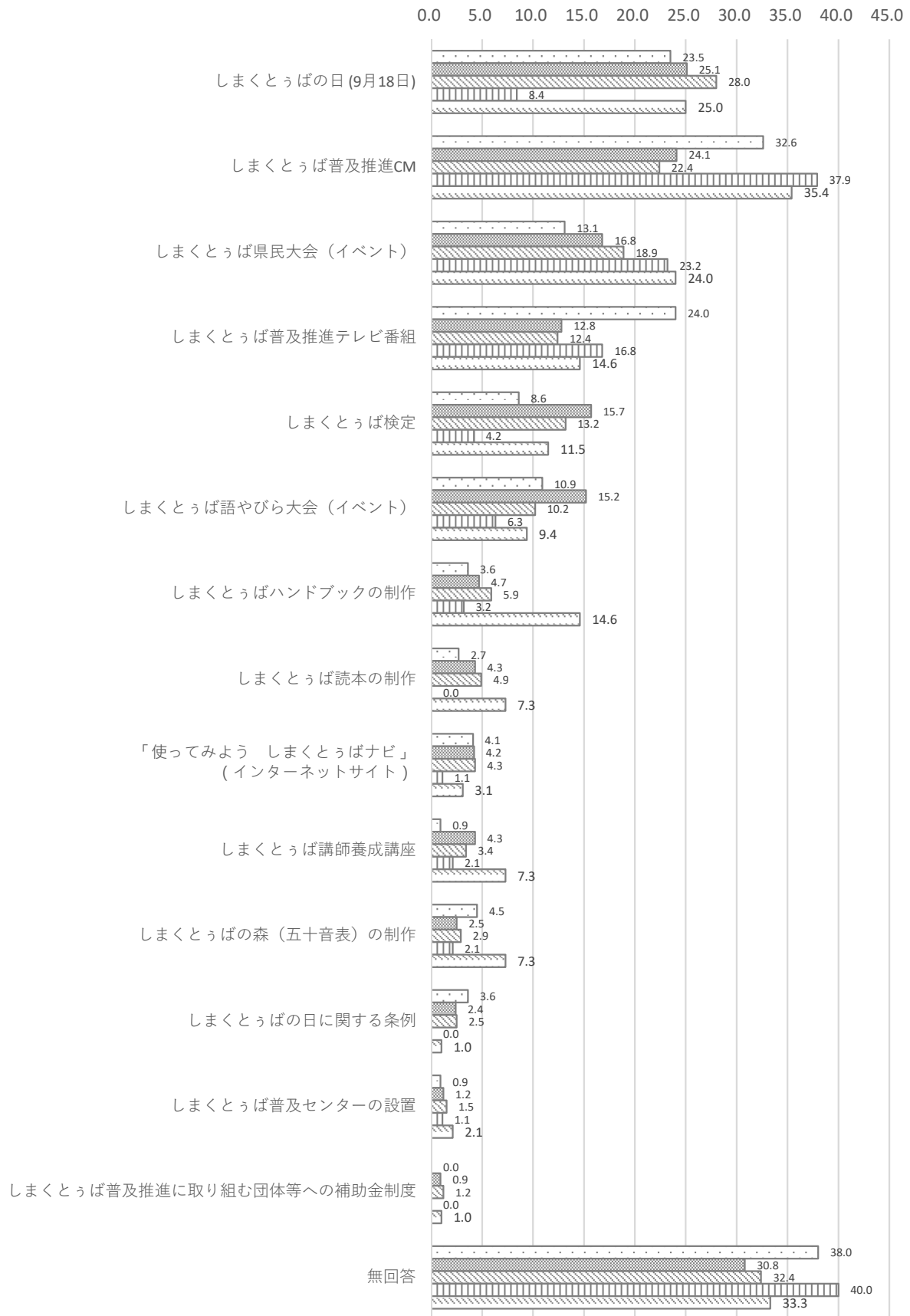


15. 普及継承の取り組みについての認知度（年代別）



□10代 (n=346) ■20代 (n=356) ■30代 (n=372) ▨40代 (n=386) ▩50代 (n=374) ▤60代 (n=364) ▥70歳以上 (n=353)

15. 普及継承の取り組みについての認知度（地区別）



□ 北部地区 (n=221) ■ 中部地区 (n=1105) ▨ 南部地区 (n=1034) ▩ 宮古地区 (n=95) ▪ 八重山地区 (n=96)